

## 諏訪之瀬島の火山活動解説資料（平成 23 年 3 月）

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

御岳<sup>おたけ</sup>火口では、爆発的噴火<sup>1)</sup>を含む噴火が時々発生し、噴火活動は活発に経過しました。火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

## ○ 3 月の活動概況

## ・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 3）

御岳<sup>おたけ</sup>火口では、噴火が時々発生し、そのうち爆発的噴火は 5 回（2 月：15 回）と、前期間と比べてやや減少しました。19 日 12 時 53 分の爆発的噴火では、住民から十島（としま）村役場諏訪瀬島出張所へ、噴石が火口周辺に飛散したとの通報がありました。遠望カメラによる観測では、天候不良のため噴煙や噴石は確認できませんでした。

噴煙の最高高度<sup>2)</sup>は火口縁上 1,200m（2 月：1,200m）でした。また、同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映<sup>3)</sup>を時々観測しました。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落（御岳の南南西約 4 km）では降灰は確認されませんでした。

## ・地震や微動の発生状況（図 3、図 4）

11 日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、A 型地震が一時的に増加しましたが、その後減少しています。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

火山性地震の月回数は、A 型地震<sup>4)</sup>が 166 回（2 月：533 回）で前期間と比べて減少しました。B 型地震<sup>5)</sup>は 387 回（2 月：229 回）で前期間と比べて増加しました。7 日 19 時 13 分にトカラ列島近海を震源とするマグニチュード<sup>6)</sup> 5.1 の地震が発生し、十島村諏訪之瀬島で震度 2 を観測しました。

- 1) 諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、島内の空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としています。
- 2) 2003 年 3 月 28 日以降、噴煙の最高高度は遠望監視カメラによる観測値と十島村役場諏訪之瀬島出張所の報告のうち高い値を用いています。
- 3) 赤熱した溶岩や高温の火山ガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。
- 4) P 相や S 相が明瞭で高周波成分が卓越する地震です。
- 5) P 相や S 相が不明瞭で低周波成分が卓越する地震です。
- 6) マグニチュードは地震の規模を示します。資料中の値は暫定値で後日変更することがあります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 4 月分）は平成 23 年 5 月 10 日に発表する予定です。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

火山性微動の継続時間の月合計は 73 時間 9 分（2 月：290 時間 36 分）で、前期間と比べて減少しました。また、調和的な微動が 19 日に 19 回、20 日に 14 回（2 月：1 回）発生しました。



図1 諏訪之瀬島 噴煙の状況（3月12日、寄木遠望カメラによる）

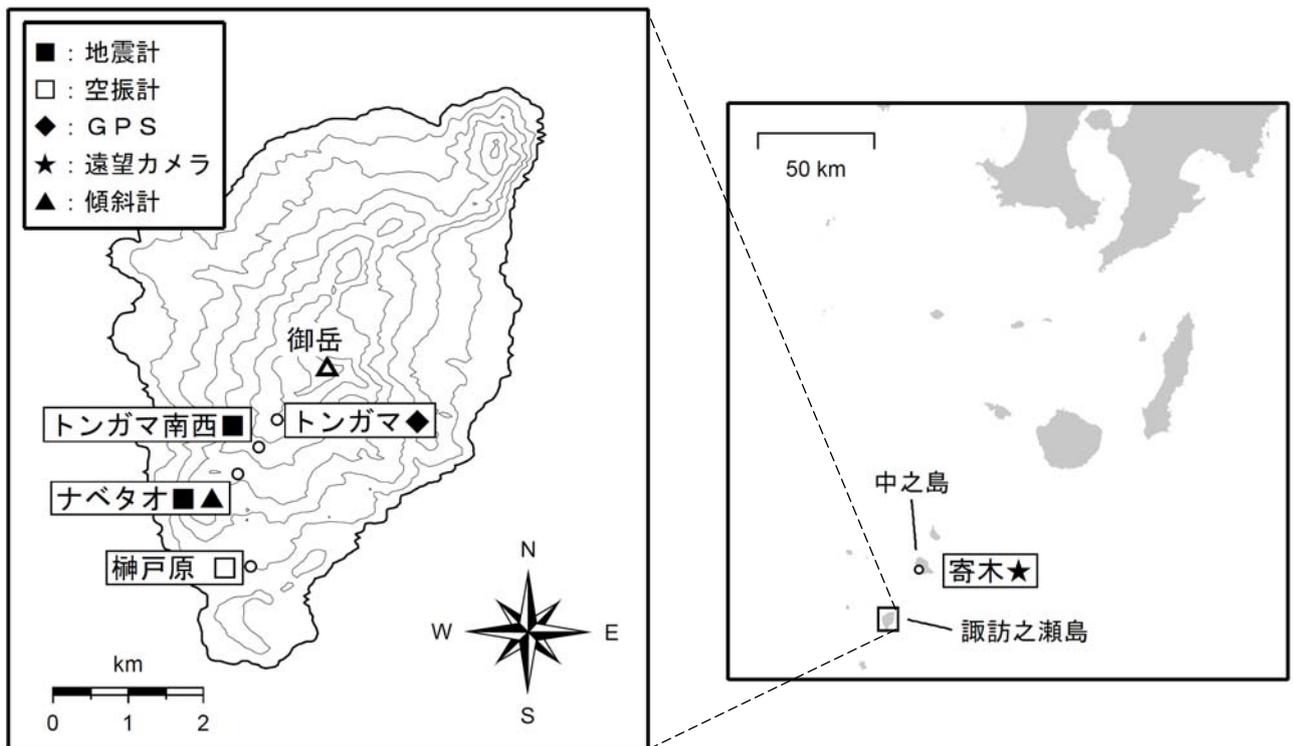


図2 諏訪之瀬島 観測点配置図

小さな白丸は気象庁の観測点位置を示しています。

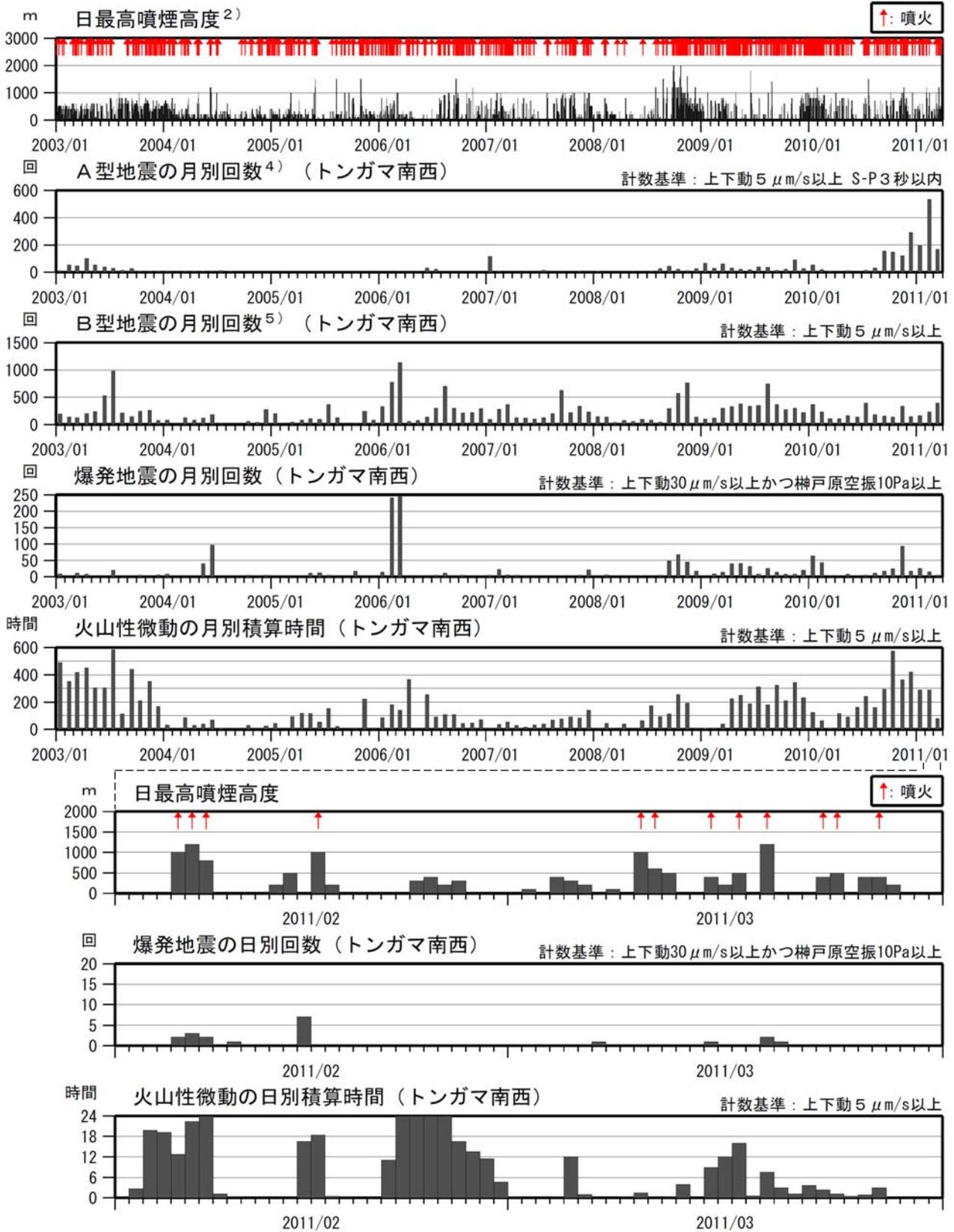


図3 諏訪之瀬島 火山活動経過図 (2003年1月~2011年3月)

- ・長期にわたり噴火を繰り返しています。
- ・火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

<3月の状況>

- ・御岳火口では、噴火が時々発生し、そのうち爆発的噴火は5回(2月:15回)とやや減少しました。
- ・噴煙の最高高度は火口縁上1,200m(2月:1,200m)でした。
- ・火山性地震の月回数は、A型地震が166回(2月:533回)で前期間と比べて減少しました。B型地震は387回(2月:229回)で前期間と比べて増加しました。
- ・11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、A型地震が一時的に増加しましたが、その後減少しています。

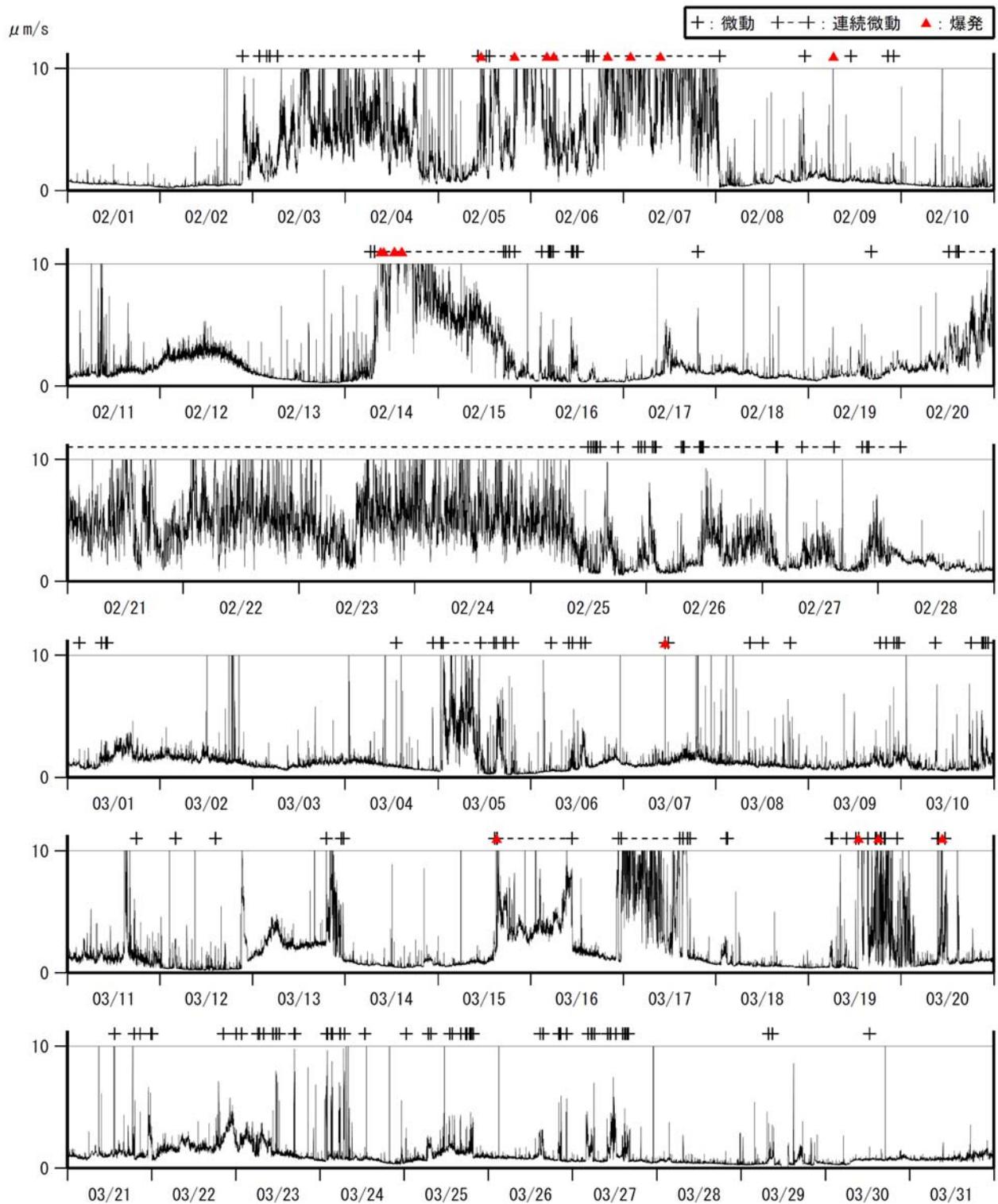


図4 諏訪之瀬島 1分間平均振幅の時間変化（トンガマ南西上下成分）

（2011年1月～2011年3月）

<3月の状況>

火山性微動の継続時間の月合計は73時間9分（2月：290時間36分）で、前期間と比べて減少しました。